



よりよい「探究テーマ」を設定するために 外部講師による講座を開催しました

今さらながら、そもそもの話……本校の教育活動の特色である「串木野学」(探究的な学び)で我が子は何をやっているのか、保護者の皆さんにはご存じでしょうか。(保護者にとっては、当時そんな授業はなかったのだから、イメージしづらいですよね。) まず、**探究的な学びとは……**

「生徒が自ら問い合わせや課題を見つけ、その解決に向けて主体的に情報収集・分析・対話・

協働しながら、自分なりの答えや価値を見出していく学習活動」のことです。

また、その目的は、知識を一方的に受取るのではなく、実社会や実生活の課題(串高では主に地域の課題)と結びつけ、**思考力・判断力・表現力といった「生きる力」を育むため**なのです。

自分たちで好きなテーマを決めて研究していくと聞けば、簡単な感じがするかもしれません。しかし、いざやってみると実は意外と難しいものなのです。生徒たちが難しいと感じるのは、主に次の理由が考えられます。

- (1) **テーマの設定が難しい**……いくら興味深いことでも身の丈に合ったスケールでないと進まない。また、探究を進めるための時間、情報、手段がなければテーマとして成立しない。
- (2) **やらされ感**……何をどう探究すれば? 関心の低いテーマだと主体的に取り組めない。
- (3) **知識・技能の不足**……探究に必要な情報収集力、分析力、表現力等のスキル不足。

前置きが長くなりました。1年生対象に、8日(月)～9日(火)に計4時間使い「探究」に関する講座を実施しました。講師は夏休み以来、指導いただいている「みらいラボ」の小林さん。今回は主に「探究テーマの設定」について。前述の(1)～(3)を解消することが目的です。講座での印象的なセントンスをいくつか紹介すると……

- ・ ニュースからではなく君自身が感じている身近なことをベースにして**「これっておかしくない?」**という視点を大事にしよう。
- ・ 本音ベースのテーマだとやる気が出る。**リアルな本音**を洗いざらい出してみよう。
- ・ 文句を言うのは簡単だ。**違和感**を**「企て」**に変えてみよう。どんな状態が理想型?
- ・ **君たちが当事者**。もっと解像度を上げろ。もっと調べたら? 実際に見に行ってみたら?

実際に、生徒たちから、串木野をテーマにした様々な「リアルな本音」や「企て」がたくさん出てきました。講座の最後には、各自が考える「理想の串木野」を画像で表現。でも、理想を現実にするためには、ヒトやカネ等の問題をクリアする必要があるのです……。「なら、どうすればいい? 自分たちに何ができる?」——こういう学びを、私も高校生のときについたかったなあ。

